

同窓生の新刊紹介

上原 昇（2組）

同窓生の黒坂正文さんをご存じなくても、コカリナ奏者の黒坂黒太郎さんといえば知っている（演奏を聴いたことがある）という人が多いと思います。

黒坂さんは66期で塩田東前山出身、高校卒業後、早稲田大学在学中から音楽活動を始めたとのこと。1995年にハンガリーで木製の笛と出会い、以降、自ら改良・創始したコカリナでの演奏を国内外で広げています。

私が関東同窓会会長をやっていた2018年6月の総会には、黒坂黒太郎・矢口周美ご夫妻をお呼びして演奏会を開き大好評でした。（写真）

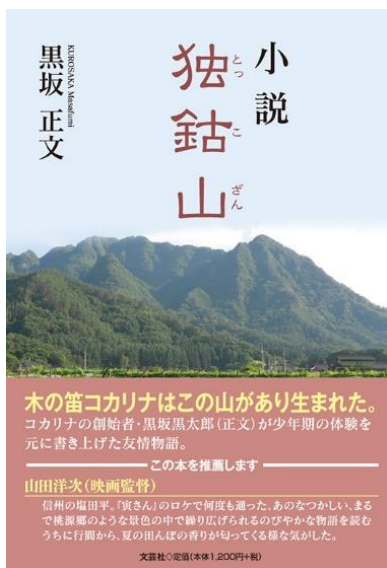
その黒坂さんが昨年の10月に『小説 独鈷山』（文芸社刊、1200円＋税）を上梓しました。

<https://www.bungeisha.co.jp/bookinfo/detail/978-4-286-24534-8.jsp>

生まれ故郷の塩田平を舞台に、黒坂さん自身と思われる少年が主人公の物語です。

黒坂さんとは同年代の我々には、小説で描かれる当時の故郷の原風景は懐かしく郷愁を呼び起こします。

興味のある方は、是非お読みください。



「小説 独鈷山」

総会でコカリナ演奏する黒坂さん

(2024年1月7日記)

以上